

## 令和4年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 GIGAスクール構想の下、教職員はICT活用スキル向上に努め、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① GIGAスクール構想の実現に向けた教職員の研修をとおして、ICT活用指導力の向上を図る。	副校長 教頭	昨年度は97%の教員が、研修をとおしてICT活用指導力が向上したと実感している。GIGAスクール構想の推進校として、今年度もより一層ICT活用指導力を高めて、生徒の学びの質を高め、資質・能力を育成していく必要がある。	【努力指標】（教員） 研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力の向上を図る。	研修や授業をとおして、個々の生徒の学習状況に応じたICT活用指導力が昨年度よりも向上したと考える教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	副校長 教頭	部活動指導や分掌業務などで、時間外勤務が80時間を超える教職員が1ヶ月あたりの平均で3.1人、そのうち100時間を超える教職員が1.1人となっている。	【成果指標】（教職員） 時間外勤務が80時間を超える教職員が0人になる。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の人数が A 0人 B 1人未満 C 2人未満 D 2人以上	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。
2 書くことを基本とし、生徒自身が考えを整理し、深く考えることで論理的思考力及び批判的思考力を鍛え、課題発見・解決能力を身に付けられるようにする。その際、教職員は主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業に導入するとともに、ICT機器を活用し授業力の向上を図る。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションについては、一定の学習効果を感じている生徒が見られる。また、GIGAスクール構想の推進校として、ICT活用による教育効果を更に高めていく必要がある。	【満足度指標】（生徒） アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器の活用により、学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにICT機器を活用することにより学習効果が高まった（a強く＋bやや）と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 授業において、生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力が育まれる場面、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を設定する。	教務課 各教科	「論理的に答える」ための発問の工夫や、生徒の活動の中で「表現する場面」の設定を積極的に進めている。Chromebookの活用により、発言しなくても自分の考えを全体や他者と共有できることが可能になったが、教師と生徒及び生徒同士の意見交換をする場面は少なく深い学びに達しているとは言えない。	【努力指標】（教員） 授業で生徒が自分の考えを論理的に答える場面や教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図ることができた。	日々の授業において、教師が論理的に答えさせる質問をし、生徒が教師や生徒同士と意見交換する場面を（a多く＋b時々）設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 授業内容と家庭学習の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	家庭学習に積極的に取り組む生徒は、3年生は受験前で増えているが、1、2年生は減少している。1、2年生については、年度当初は緊張感から家庭学習に取り組むが、継続されない。	【成果指標】（生徒） 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立した。	家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考える生徒の割合が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

## 令和4年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	<p>【1年】 国数英の朝学習の取組が家庭学習の習慣化につながり、基礎学力の向上に役立っている。今年度は国数英の取組に加えて、すべての教科学力の土台を養成するために言語能力の育成に取り組む。</p> <p>【2年】 「思考の時間」を含めた昨年度の活動によって、主体的に朝学習に取り組む姿勢は確立している。今年度は共通テストも見据えて、理系・文系それぞれに応じた科目・内容を設定して、授業との効果的な連動を実践する。</p> <p>【3年】 進路実現のために各教科が精選した学習内容を、コースの特性を踏まえて用意する。特に、基礎学力の確認と充実を図る時間として利用する。</p>	<p>【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組み、学力や教養が身に付いた。</p>	<p>朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
3 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年教科	進路選択の幅を可能な限り広げるため、高い志望を掲げさせることで、目標に向かって努力する生徒が増えている。今後もこの取組を継続しつつ、その志望の実現のための能動的な学習習慣の確立について、積極的に働きかけていく。	<p>【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上した。</p>	<p>【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学合格を目標とする生徒が</p> <p>A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上</p> <p>【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が</p> <p>A 70人以上 B 50人以上 C 30人以上 D 30人未満</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査の結果で判断する。
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年教科	<p>1年生：家庭学習の習慣を確立させながら基礎学力の定着を図る必要がある。</p> <p>2年生：国英数のバランスのとれた総合力を身につける必要がある。</p> <p>3年生：入試に対応できる基礎力の完成を図りつつ、国英数に加えて、理社の力を身につける必要がある。</p>	<p>【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につけることができた。</p>	<p>1、2年生の11月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が</p> <p>A 平均偏差値48以上 B 平均偏差値45以上 C 平均偏差値42以上 D 平均偏差値42未満</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
				<p>【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学に合格できる学力が身についた。</p>	<p>1、2年生の11月実施の総合学力テストにおいて、国語、数学、英語の3教科総合の全国偏差値54以上の生徒が</p> <p>A 45人以上 B 40人以上 C 35人以上 D 35人未満</p>	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。

## 令和4年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
				【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学の合格者数。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 10人以上 B 8人以上 C 5人以上 D 5人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
					国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 55人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
					難関私立大学合格者数が A 10人以上 B 7人以上 C 5人以上 D 5人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
4 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課	コロナ禍にあって行事のあり方に変化があり、保護者の学校参加の形も変わってきている。その間、学校からはさまざまなツールで学校や生徒たちの様子を発信し、保護者との繋がりを保つよう働きかけている。同時にPTA役員の方は校内で、また地域とも連携し、学校を応援してくださっている。今後の状況はわからないが、学校・保護者が信頼しあう土台づくりに努めたい。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心を持ち、積極的に参加した。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した・または職員とのやりとりを電話などでした回数 の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	以前より頻繁に最新の様子が更新されている。「見ている」という保護者と「見ない」という保護者が固定しているように見えるが、アクセス数は増えている。課題は、秋以降の更新が少なめであり、更新されていないページも見受けられることである。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報を集約し、速やかにホームページ上に掲載した。	ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 30,000以上 B 25,000以上 C 20,000以上 D 20,000未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	様々な状況の中で、中途退部者が10%弱発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 部活動に加入し、活発に活動した。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。

## 令和4年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
	④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課	明倫祭や生徒会行事後のアンケートでは多くの生徒が積極的に参加しているようである。地域の行事や活動にも生徒自身が主体的に参加できる場面をつくり、充実感や達成感を得られるよう工夫したい。	【満足度指標】（生徒） 委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた。	委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、可能な範囲で活動する。	図書課	昨年度はコロナ禍の影響で、予定していた図書館行事が1部できなかった。今年度は、可能であれば学外での活動を復活させ、生徒の主体性を育む一助としたい。	【成果指標】（生徒） 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し、情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間8回以上 B 年間5～7回 C 年間4～5回 D 年間4回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。
5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	保護者や全職員による登校指導や、有志の生徒による挨拶運動により、挨拶をする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになっている。しかし、しっかり声を出せる生徒が少ない。	【努力指標】（生徒） 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかり声を出して挨拶をする生徒が増える。	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかり声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	生徒の規範意識は高いものの、僅かではあるが、頭髪の加工や制服の不適切な着用で規律を守れていない生徒がいる。	【努力指標】（生徒） 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増える。	制服を意図的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	規範意識自体は高いが、イヤホン着用や並列走行などに違反意識が薄い。細かな指導と啓発活動が急務である。	【成果指標】（生徒） 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えた。	交通ルール（自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない）を遵守している生徒が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

## 令和4年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	全校で取り組んでいる校外清掃や部単位での校外活動を行っており、今後もこうした機会を通じ地域貢献意識を高める。	【成果指標】（生徒） ボランティア活動を通して地域貢献できていることを感じとり、積極的に活動に取り組んだ。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人と関わることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】（生徒） 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	【努力指標】（教員） 各種調査や情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたのアンケートをとり、あてはまるの割合が、 A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	放課後に全校一斉清掃として、全生徒・全教員が校舎内の清掃に取り組んでいる。活動を通して、生徒と教員がコミュニケーションをとる時間にもなっている。	【成果指標】（生徒） 環境美化意識を持ち清掃に取り組んでいる。	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	1学期は、総体総文期間中の一斉指導や1年生への働きかけにより、貸出し数が好調であったが、2学期以降伸びていない。もっと読書の楽しさや、必要性を伝え、進路実現にも読書が大きな役割を果たしていることを理解させる必要がある。	【成果指標】（生徒） 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増加している。授業や部活動に関連した図書の展示などによって学校生活と読書を関連づけることで、来館・貸出が増加する。	本校図書館及び「ののいちカレード」を利用した生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 10冊以上 B 8冊以上 C 6冊以上 D 6冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。